

こまつ座 イヌの仇討

言わせて! 今日の芝居 ◎五十字劇評 No.40

た。おもしろかったです。

(女性)

【六〇代】

▼テンボも良く、内容も誰にでもわかるセリフ!こまつ座ははずれなしですネ。今の現状で芝居を観れたことに感謝です! (女性)

▼久々のこまつ座公演。やはり井上作品は凄かった! 隠れ部屋での二時間。その中で、場面転換もなく台詞の語りだけで、赤穂浪士の存在や、浅野内匠頭による事件の真相、生類憐みの令に苦しめられる庶民の暮らしぶりなどがくつきりと見えてくる。吉良上野介に対するイメージも全く違ったものに見えてくる。止めは、大石内蔵助の真意が実は吉良の仇討ちに見せかけたお上への謀反であったこと。これは凄いことだと思う。

▼吉良側から見た忠臣蔵。自分は初めから終わりまでコメディであると感じたが、役者さんの演技に圧倒された。

【三〇代】

(男性)

【四〇代】

▼前方の席だったため、舞台装置、役者さんがよく見え、迫力ありました。それぞれにいい役されていまし

まるで謎解きのミステリーを観ているようなスリリングな展開だ。出演者の好演も相まって、とても面白く観ることができた。あえて問題のある発言をさせていただと、脚本家にはふた種類あつて、「井上ひさしとそれ以外」だと私は思っている。井上さんの作品は、それほど面白く凄みがある。

(男性)

▼忠臣蔵の真実は、そうだったのか!吉良上野介が「私はなにも悪いことはしていない」との語りに納得しました。「生類憐みの令」に対する大衆の反発が、仇討ちを美談にしていたのですね。

(女性)

▼吉良から見た忠臣蔵。そして、理不尽なお上の天下への挑戦。井上作品は、いつも違った見方、考え方を提示してくれます。相手の

立場になって考えるということは、言い方を変えれば「思いやり」。井上作品はいつも優しさに溢れています。最後に、この芝居を見ることのできて本当に良かったです。劇団と、市民劇場の運営担当サークル・幹事・事務局の皆さん、本当にありがとうございます。

(男性)





▼題名のイヌとはお上であったか！大谷亮介の名演で舞台が引き締まった。武士として最後を遂げる上野介に拍手。
(男性)

【七〇代】

▼生類憐みの令を出した綱吉が、浅野になぜ切腹を命じたのか？吉良の分析が興味深かった。大谷亮介は堂々としてよかった。
(女性)

▼世間でいう忠臣蔵にまるで関心がなく、当番になった時「井上ひさし作品」だから良いかと。ところが広告ちらしを読んで興味津々。
「世間では」ときりこむぬすつとのせりふが井上ひさしなんだ。現代「権力に忠実なイヌども」を滑稽に笑いとばすには、もうちよつと時間がかかりそうだねえ。
(女性)

▼会場に入った瞬間、舞台の造りに久々に感動しました。お芝居はそれなりでしたが、内容にびっくりでした。こんな見方もあるのかと納得して観ていましたが、イヌの仇討のイヌは誰、吉良上野介がイヌなら誰の仇討したのか最後まで？で終わってしまったのが心残りです。イヌは誰で誰の仇討をしたのか、教えてください。
(女性)

▼今例会の観客数が増えたのは、事務局が詳しく対策方法を示してくれたおかげだと思つた。感謝します。
(女性)

【年代不明】

▼今まで見た忠臣蔵とは全くイメージの異なる作品。狭い蔵の中で討入りの真理に思いを巡らせ、最後には全て悟って自ら蔵を出ていく吉良の姿に深く心を打たれた。
(女性)

▼イヌの仇討の上演中、興味をそそがれたのは、井上芝居のことばのみならず、イヌに対してでもでした。ロボット？
(男性)

編集スタッフから
お芝居再開まで、ずいぶん時間がたちました。
あたり前に演劇が来ること
が、あたり前でないことを思い知らされました。待ちこがれた、今日の劇評をお待ちしています。旭川市民劇場があと続けることを願ひ、会員増に力を合わせましょう。